

日本工学院八王子専門学校	開講年度	2019年度（平成31年度）	科目名	手話2	
科目基礎情報					
開設学科	柔道整復科	コース名		開設期	後期
対象年次	1年次	科目区分	必修	時間数	30時間
単位数	2単位	授業形態	講義		
教科書/教材	教科書（ はじめての手話 ― 生活書院 改訂新版― ）に準拠する。				
担当教員情報					
担当教員	佐野 立太郎		実務経験の有無・職種	無	
学習目的					
手話を学ぶという事は外国語を学ぶようなものである。日本の聾者が使っている日本手話は、日本語とは異なる独自の体系をもつ言語である。また、独自の言語を話す集団としての聾者は、独自の文化さえ持っている。例えば人を指さす動作は聴者では、あまり適切な行動とはいえないと思うが、聾文化では適切な行動である。つまり、この科目を受講する学生は、日本手話を使いながら、聴者（耳の聞こえる人）とは異なる独自の文化を持っているといわれている聾者の文化を学び、日本手話で聾者とコミュニケーションをとれるようになることがねらいである。					
到達目標					
日本語とは異なる独自の体系をもつ言語である日本手話を理解し、探求する力を身につけるために、1つ目に手話のごく限られた要素とその組み合わせ方といった仕組みである音韻構造を理解することである。2つ目にたくさんの人が手話を学んでいるが、その学習方法はほとんどが「単語を覚えるだけ」というものである。ただ、単語だけを覚えても、聾者が日本手話で話すのを見て理解できるようにはならない。そのため、文を作る時の仕組みを知ることが重要であり、日本手話の文法を理解することが必要となる。3つ目に聴者では適切な行動だと思われることが、聾文化において不適切だと思われる行動があることを理解することを到達目標とする。					
教育方法等					
授業概要	日本手話とは、日本語とは別の言語であって、日本語を表示する記号ではなく、聾者同士が日常的に用いているものである。授業形態は座学中心で手話1では日本手話の基礎を中心に聾者の独自の文化を重点において学ぶ。				
注意点	日本手話では、学生間・教員と学生のコミュニケーションを重視する。キャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、聾文化への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める（詳しくは、最初の授業で説明）。ただし、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験・課題	70%	試験と課題を総合的に評価する		
	小テスト	0%			
	レポート	0%			
	成果発表 (口頭・実技)	30%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する		
	平常点	0%			
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容		各回の到達目標		
1回	旅行(1)		旅行、修学旅行、個人旅行などを手話で表現が出来る。		
2回	旅行(2)		国内、海外旅行、目的、期間や交通手段が手話で表現が出来る。		
3回	嗜好品		コーヒーやワイン、タバコなどが飲める吸えるなど手話で表現が出来る。		
4回	携帯端末		スマートフォンやipadやiphone等の種類を手話で表現が出来る。		
5回	SNS		パソコンメーカーやSNS関連を手話で表現が出来る。		
6回	病気、怪我(1)		病気やケガ、部位などを手話で表現が出来る。		
7回	病気、怪我(2)		程度や通院、入院などを手話で表現が出来る。		
8回	振り返り(1)		1回～7回までの振り返り		
9回	干支、動物		干支や動物ペットの表現を手話で表現が出来る。		
10回	冬休みの過ごし方		冬休みの過ごし方や大晦日、お正月の過ごし方、行事を手話で表現が出来る。		
11回	住まい(1)		住まい（家、寮）、間取り図を手話で表現が出来る。		
12回	住まい(2)		最寄駅からの距離や自宅の広さなど手話で表現が出来る。		
13回	住まい(3)		家具の位置の表し方を手話で表現が出来る。		
14回	各接客手話		包帯巻きの手話表現、各接客の表現を手話で出来る。		
15回	振り返り(2)		9回～14回までの振り返り		